

# 黒潮の実態明らかに

沖縄亜熱帯計測センター 石垣、与那国の2カ所

## 遠距離海洋レーダーを設置

旧郵政省の独立行政法人、通信総合研究所の沖縄亜熱帯計測技術センターは七日午後、沖合約二百キロの広範囲の海流を同時に観測できる遠距離海洋レーダーの開発にこのほど成功したと発表した。

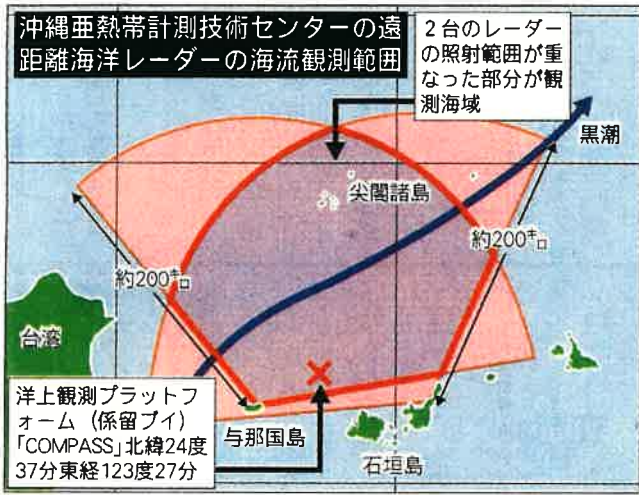
石垣島と与那国島の二カ所に設置、七月十四日に観測を始めた。センターで瞬時に処理される観測データは、本年度中にインターネットで一般公開する。

陸上から海に短波帯の電波を発射。海面で反射されて帰ってきた電波を解析し、表層の海流や海上風向、波高などの観測データを得る。

従来の短波海洋レーダーの観測可能距離は七十キロで、黒潮など大規模海流の観測は困難だった。海洋レーダーは通常二台一組で使用され、今回のレーダーも両島に送受信装置を設置し、東シナ海南部の黒潮流入域を観測対象としている。

センターでは「黒潮の流速などの長期連続観測が可能となり、日本の気象変動に大きな影響を与えると考えられる黒潮の季節変動、経年変動の実体を明らかにできる」と説明しており、水産業や台風などの研究にも期待されている。

ことし三月に投入された海洋観測用の係留ブイ、COMPASSの計測データを使って、新レーダーの正確性を検証する作業も行う。



琉球新報

平成 13年 9月 8日 (土)

朝刊 2面 (総合欄)